



TITLE:

1985年度物性若手夏の学校報告

AUTHOR(S):

CITATION:

1985年度物性若手夏の学校報告. 物性研究 1986, 46(3): 333-333

ISSUE DATE:

1986-06-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/92080>

RIGHT:

1985 年度物性若手夏の学校報告

(1986 年 3 月 6 日受理)

筑波大学物性若手グループ

1) 開催後記

今年度の物性若手夏の学校は 7 月 26 日から 30 日までの 5 日間にわたって志賀高原一ノ瀬で開催されました。今年は 30 周年記念ということもあり、320 名もの参加者を得て大いに盛会であったと言えます。夏の学校は全国に散在している若手研究者が集まる年に一回の機会であることから、出来るだけ多くの人々に参加して載き、横のつながりを深めて貰おうという私たちの願いがかなえられ、一同感謝しております。特に今年は企業からの参加者が例年よりも多く、若手物性研究者は大学だけにいるのではないことを強く印象づけられました。

夏の学校が“学校”である以上、友情を深め合うだけではなく、教育的、学問的内容のある集まりでなくてはなりません。この面では、講師やサブゼミ発表者の方々の御努力の結果、充実した集まりであったと言えます。ただ、テーマの選択が理学に偏りすぎたことと、企画の立て方が従来どうりであったため新鮮味に欠ける嫌いがあったことは否めません。

夏の学校は今年で 30 周年を向かえ、定着した行事に成長しました。主催する大学が輪番制であること、安定した財源がないため財政的に不安定であることを乗り越え、よく 30 年間も続いたものだ感慨にたえません。これは、歴代当番校の諸先輩の努力はもとより、物性を研究している人々が夏の学校の必要性を認め、応援して下さっているからに他なりません。今後夏の学校が更に発展することを祈りつつ、次の当番校京都大学にバトンを渡します。

最後になりましたが、お忙しいにもかかわらず講義を引き受けて下さった講師の先生方、サブゼミの発表者や世話人の皆さん、そして応援して下さった数多くの方々に心から感謝致します。

物性若手夏の学校'85 準備局 古谷野 有

以下に日程と、講義、サブゼミの報告(司会者の皆さんにお願いしました。)を掲げます。

2) 日程

26, 27 日